

第70回現代歌人協会賞選考経過

大松達知

まず、2025年に刊行された協会員以外の第1歌集から、特に優れたものを推薦するアンケートを実施した。256票（内無効票22票）が投じられ、55冊に1票以上が入った。その後、選考委員7名（梅内美華子・春日いづみ・佐

現代歌人協会会報 187

藤弓生・田中拓也・中沢直人・花山周子・大松達知）はアンケート結果を参考にして、5冊ずつを推薦した（第1次選考）。その上で、名前の挙がった14冊のうち、得点上位5冊を最終候補とすることを決定した。

その5冊について、4月9日（木）、東京芸術劇場（池袋）において、討議を行なった。（春日いづみは都合により書面参加。）その場での意見の一部を記す。

・小原奈実『声影記』（港の人）
わが去りて全きしづけさを得た

る部屋をおもひをり戸をとちて
しばらく

カーテンに鳥の影はやし速かり
しのちつくづくと白きカーテン
端正な文語旧かなによる知的な
把握に読み応えがある。精神の深
層へ潜るような抽象度の高い歌や
静謐な歌にも力があり、職業上の
体験も解像度が高い。一首一首の
みならず連作としての完成度も優
れている。

・屋良健一郎『KOZA』（なが
らみ書房）

無知こそが無傷の秘訣たる島に
われは戦もアメリカ世も知らず
沖繩の心を持ってと論されて半分
開ける助手席の窓

沖繩で生まれ育った複雑な思い
を方言やユーモアを交えて直截に
伝える。歴史的な重いテーマと、
個人の恋愛や研究での逡巡、暴力
と性の問題などが交錯する現実の
描き方が良い。一方、技巧の弱さ
や表現面での冒険の少なさも指摘
された。

・貝澤駿一『ダニー・ボーイ』（本
阿弥書店）

教科書をひらけばモスクワの匂
い 君をサーシャと呼ぶ日々が

ある
ガザに雨が降らないことを、慈
雨という言葉がうまく訳せない
ことを

ロシア、スリランカなどの外国
や勤務校、戦争や差別問題など幅
広い題材を扱う。そこから自分と
は何かを省察してゆく。倫理的苦
悩をねじれた文体で詠むのが特
徴。共感がやや単調という意見や、
既成の価値観への従順さを気にす
る声もあった。

・山中千瀬『死なない猫を継ぐ』
（典々堂）

牛乳が切れたら次の牛乳をあぶ
ない橋を渡るみたいに
フィルムのきれはしを陽に透か
しつつサウンドトラックだよこ
の帯が

口語短歌の必然性があり、些事
から生への接続が良い。排除され

第70回現代歌人協会賞

歌集『声影記』

小原奈実（おばら・なみ）

2025年2月3日刊（港の人）

【略歴】1991年、東京都生まれ。第
56回角川短歌賞次席。

歌集『ダニー・ボーイ』

貝澤駿一（かいざわ・しゅんいち）

2025年3月1日刊（本阿弥書店）

【略歴】1992年、神奈川県生まれ。「か
りん」所属。第39回かりん賞受賞。

やすい存在に寄り添う姿勢は（抵抗詩）とも言え、自由を希求する歌に訴求力がある。ただ、挿入された川柳には賛否が分かれた。

・種市友紀子『蓮の島』（本阿弥書店）

ともするとすぐに涙となる水が
ひとの身体にしまはれてをり
くりかへしきみを打ちたる白き
手がきみのなかよりあらはれて
をり

社会への哲学的な批評性がある。大袈裟でない想像力に豊かな時間を感じさせ、過去の暴力を思う歌などの連作に重みがある。多彩で細やかな語彙の組み合わせで作者のみずみずしい感性と思考がよく伝わる。

7人の選考委員全員が『声影記』を推していた（1位が4人）が、レトリックや視点など、既成の短歌のあり方を更新するものではないという意見もあった。そこで、2作同時受賞の可能性も探りつつ改めて5作を検討しなおした。その結果、『ダニー・ボーイ』の広がりのある歌風に可能性を感じるという声もあり、挙手投票の結果、2作受賞と決まった。

それぞれ個性的で甲乙つけ難い歌集を評価する難しさのある中、対照的とも言える2冊が選ばれたことに賞の意義を感じた。また、理事外から加わっていたいた花山周子さんにも感謝を申し上げたい。